

昭和四年中阿蘇山活動報告

熊 本 測 候 所

本年中の活動の概要を取纏め報告するに左の如し

一月以來は平常の活動にして第二火口第四火口共に白煙をあぐるに過ぎず、月末廿五日に至り南の池より活動を始め噴音と共に黒煙を吹き石を噴出せり、二月十七日、廿一日にも同様の行動を爲し廿七、八日亦大噴煙ありしが爾後暫く小康を保ち三月廿一日、廿二日、廿三日、廿四日頃小活動をなし溶岩を噴き、廿五、廿六、廿七日も亦同様の状態を見たり、廿八日は静なりしも廿九日午後八時頃より鳴動始り三十、三十一日に亘り黒煙小石を噴く、四月三、四、五日頃には噴火口の穴小さくなる、四月十一日午後八時半頃も亦溶岩を飛し火柱の立つを見たり、四月十五日午後三時頃地震を感じ、四月廿日、廿七日、廿八日、廿九日に亘り盛に鳴動し山麓の防中及宮地町方面まで其鳴動響こゆ、五月六日午後三時鳴動止り火柱を見る、七、八、九、十、十一日は引續き黒煙強く、七日は暴風雨の爲め山上にては三間先き霧にて見えず、即ち本年の初春は平常の如く静穩状態を經續し、四月五日頃より次第に活動を帶び來り、五月廿六日第四火口に鳴動を始め、黒煙を噴き活動を帶び來たる引續き六月に入り七月に及びては益々活動盛んとなり十一日午前より黒煙は一層猛烈となり午後は益々勢を加へ夜に入り遂に第四火口の南壁最高所より下へ

約八十米位の棚に直經三米位と思はるゝ堅孔を生じ、壁の傾斜し居る爲め當時橢圓形の切口に見えて居たが、其後次第に切口を擴め凡そ十米内外迄擴がりたり之れは全く獨立せる火口とも思はれず、第四次火口は元來降雨の都度、溶岩片、土砂、降灰等火口底に流れ込み埋るに從て噴煙も弱り、内部に相當勢力が蓄積し來りて外力の刺戟でも受くれば爆發を起すに至るもの如し、從て自分で吐出しては又吞込み斯く繰り返す中には火口に流し込みし砂や溶岩の爲めに多少の間隙が出來其の爲め別の方向に堅穴を作り遂に小火口が出來しもの、如く見ゆ、從つて本火口の噴煙に遅るゝ二三秒の後、もや／＼と噴煙の出つるを見れば全く獨立したる火口とは認められず、斯様の如きものは何かの時期には矢張り本火口と一つに成るべきものにはあらずや思考さる、七月廿六日に至つて第二火口も活氣を帶び午後十時頃に火口の南西部に新氣孔を生じ黒煙を噴き出し、第四火口の活動は引續き盛にして連日鳴動を續け黒煙すさまじく揚り其壯觀を熊本より遠望することを得たり、爾後相共に活動を經續して第二火口の新火口は矢張り青色の煙を噴き硫氣強かりしが、之れは八月中旬の終りに及びて遂に消滅せり、夫れより第四火口の方も幾分衰へ氣味となりたるも鳴動は連日に及び九月十五日午前五時には再び活動を起し黒煙をあげ溶岩、灰砂を飛ばせり、十月に入りては活動弱り氣味となり黒煙噴出は尙ほ烈しきも鳴動はあるときも、無きときもあり、十月廿二日頃には再び盛んとなり夜は火口より火を見ることを得し程にして鳴動も連日に及び、之の頃に於て岩漿は最も上昇來り居る様に見受けられたり、十一月に入り四日午後七時より鳴

動烈しく五日午後二時は猛烈となり白い岩片を混じた噴出が始まり出し南「アトリオ」に放出したるのを見る此の頃に至て從來と異りし事は噴出の都度鳴動即ち一種のうなりを伴ひ山上本堂附近家屋の戸障子を搖がせいやなぶる／＼と言ふ振動が多くなり、六日七日も此の鳴動高かりしも八日以來は全く、鳴動無く、十日から白煙のみとなりたり、夫れに引かへ第二火口は相當の勢力を加へ口底の噴氣孔は凡四米位の大きさに擴大したるものが數ヶ所出來てそれからは黄色又は青色の煙を掲げて居たり、十二月に入り第二火口、第四火口共に大した變化なく次第に勢力衰へ遂に第四火口は殆んど休止せんばかりの牀態となり漸く氣息奄奄たるに過ぎず、第二火口の方は寧勢力を維持し居るが之れとて白煙を掲げ居るに過ぎず、第二第四とは活動が相互に交代して活動すると言はれて居たるが本年の活動も亦同様に思はれたり。

降灰の被害 阿蘇の活動は人文以前から昔は漫然戦争が起る時は阿蘇山が鳴動するとか、十六年越の週期により活動するとか又近年は日清戦争以來十年毎に活動すると言はれて居りしが最近は大正十二年が最も甚しく、亦た本年も随分盛に活動せり、其の活動により降灰の爲め山麓一體被害を蒙り農作物は勿論牧草に「ヨナ」が積るため哀れなるは牛馬にして「ヨナ」の附着せる雜草を食する故牛の如きは所謂「ヨナ齒」と言つて齒が磨滅し「ヨナ」の爲胃腸を害ひ下痢を起すこと多し、其の最も甚しき害は懷妊中の牛馬が流産をなし、山林、田畑等にも亦た尠からざる被害を生ずることあり。

從來此の被害を以て「ヨナ」の害と許り思ひ居たるが氣味惡き鳴動の後には猛烈な暗黒の噴煙揚がり風

向次第で之れが陰慘な空色となり、やがて眠も口もあけられぬ降灰となる時は實に凄慘を極む、阿蘇山の活動には此の暗黒なる噴煙と眞白なる白煙との二種あり、最近は第四火口が盛んに鳴動して暗黒の霾を噴出し第二火口は白の噴煙を如何にも氣持好く噴出して居るのは熊本からでも良く見ゆ、登山者の直に氣付くは暗黒の暗黒にして臭氣少なきも奇麗なる白煙は亞硫酸瓦斯を含み居り臭氣紛々呼吸困難を感ず、之の白煙の害亦恐る可きものなり、本年水源涵養林や山麓殊に白水村方面の農作物に被害を與へしは實に之の亞硫酸瓦斯なり、從來之の白煙の被害は時々ありしが之は多く氣象の關係に依つて白煙がつむじ風となり濃厚な一團となつて襲來する時に被害を受くこと最も多きもの、如く、梅雨後霾も降らざるに高岳中岳の間、仙醉山から宮地の小中尾から長者が久保、阪梨の石塚から阪梨牧や古閑方面迄は山も畑も原野まで深緑の内に巾廣き黄變した一線を見ること時々あり、此の線上に於ける地方の畑では玉蜀黍、大豆等被害多く桑の如きも黄變して葉がぼろ／＼落ち、原野の草は葉先が枯れ他は黄變し、更に山林に至つては新植の林地に比較的被害多く檜も杉も黄變するに至り松の内にて小松は總て葉が赤くなるか亦はぼろ／＼に落つる様になり其の秋になれば松葉は悉く落て全く枯れたるものと同様となる。大正十二年の際にも此の如き事あり、其翌年度に全部松を其の枯松の脇に補植し置きたるが其の夏には全く前年全く枯れしと思ひし松まで緑を擧げて盛んに延びし由なり、更に其當時弱りし杉や、檜も再び精力を恢復して現今は立派なる林相を保つて居れり、畢竟之の被害は一時的現象のもの、如し、本年の

亞硫酸瓦斯はいつも降灰する高岳と中岳との中間仙醉山の各筋のみでなく杵島岳、烏帽子岳方面にも亞硫酸瓦斯を吹き付けし爲黒川村、永水村扱は白水、長陽、色見の各村方面まで其被害を及ぼせり。殊に九月下旬頃白水村方面を襲ひし亞硫酸瓦斯は陸稻、桑、玉蜀黍等相當の被害を蒙らしめ今更亞硫酸瓦斯の被害大なるを覺らしめたり、之迄も相當に其被害はありしが餘り氣付かざりしものの如し、

元來蠹の害も亞硫酸瓦斯の被害も色見根子岳波野方面が比較的多く蒙るのであるが、阿蘇山麓の烏帽子岳、杵島岳高岳の比較的降灰亞硫酸瓦斯の少き處よりも原野の草も長く柔く殊に波野や根子岳山麓の萱の如きは六尺以上もあり又阿蘇山と言へば萱野か禿山をのみ聯想すれども唯一の林叢を頂上迄持續する根子岳もあり亦波野方面の原野の萱や畑地の作物の如きも「ヨナ」をかぶりし翌年は必ず草のたけも延びて豊作なりし事は實際なり、山麓の黒川村に植えし日清戰爭記念林が今日豊肥線の汽車の窓から見る時、荒涼の氣滿つ單調の裾野内に一部落毎に一戸五畝宛として植栽し其の區劃が角ばつた新植林を形成し眞黒に生きくと延び行くのを見る時荒涼もしばし亦啓蟄の思ひを感ずるにあらざや、根子岳東側の官行造林にしても今盛に延びつゝあり、且つ根子岳の北側には古來大森林もありし由今亦盛に植林され居るが總て見事に成育し居る模様なり、亦根子岳の南麓鍋の平には數年前まで實に見事なる官山ありしことは唯れも知る事實なり、更に中岳即ち樽尾岳の中腹宮地よりの登山道の左手に見ゆる檜山には其の昔巨大なる檜の木ありて朝日には二重の峠を影うつし夕日には箱石峠に影を落せしと言ふ、今も尙ほ

六七尺廻りの檜の木が點々残存して居るのを見る。

若し「ヨナ」や亞硫酸瓦斯を苦にするなら阿蘇の住民は生存するを得ぬ譯であるが田畑山林相當に出來從て建磐龍尊以來二千年幾多の變遷ありしも現在の通り生存し居り、亦植林もして居る、本年の如き悪性の毒瓦斯は年年噴出するもので無く、一朝の蹉跌で悲觀するに及ざる事は歴史の證明する所なり年々堅實に植林し場所の選擇と細心の殖裁をなせばあえて憂ふるに足ざるべしと思ふ、山高きが故に木が生長せぬと言ふことはなかるべく祖母山の如き山頂まで森林帶なるを以て知るを得べし。
阿蘇郡各町村の被害は左表の如し。

(町村別) (七月以來の降灰度數)

(霾の程度)

(霾の形容觀察)

(當時の風向風力天候)

農作物其他の被害

色見村 十一月上旬迄に三十回

一日量
美濃紙一枚の
上に三十七瓦

灰の如く薄黒薄赤
時により變色す

本村は西風に降灰多し
天候には晴雨の別なし

水稻は平年より七割陸稻は八割諸作も八割減半は霾の牧草を食する爲め胃腸の病其他諸病を發生し三割位は死に至る馬は食溶を滅する爲發病小なりと雖も流産等多く平年に三割の流産をなす。

坂梨村 不明

一日量
白紙上に約一分
位推積

西南の風の時

大豆作は殆んど皆無の畑あり養蠶に蠶兒の全滅を來し牛馬は「よな齒」なる患を發し胃腸を害する事酷し、馬は胎胎し甚しきは斃死するものあり植林も被害大なり。

草部村 十六、七回

一坪に
千瓦あり

木灰の如もの或は
木灰より少々黒味
を帯ひたるものあり

西より東への時多し

玉蜀黍五割大豆五割水稻二割陸稻四割烟草二割牛馬の健康を害す

山田村 十月十七日頃

微細なる砂状灰約十分位にて紙面薄墨色となる

― 南西の風晴

被害を認めず

久木野村 八月下旬より始り十一月上旬頃迄

砂の如きもの

農作物の被害甚しく普通作三割以上減少、牛馬、家畜の被害も少からず

産山村 三、四回あり

不明

被害はなし

古城村

八月廿七、廿八の兩日
九月廿、廿一の兩日
十一月五六日の兩日

美濃紙とせば八月廿七日廿八の兩日は一日廿八の二瓦乃至三瓦位のもの

九月廿廿一日及十一月五六日の兩日は一天薄曇り通行も殆んど困難にして目口鼻の白紙四―五瓦以上の降灰あり

水陸稻は五歩の減收、粟其他の作物には余り被害を認めざるも牛馬に於ては被害最も甚敷其當時は放牧時期なりし爲二十數頭の隨胎あり晩秋時期のときなりし爲給桑は其の都度洗滌の上なしたるも相當被害あるもの、

錦野村 不詳

美濃紙一枚
〇、五瓦

― 東の風晴れたる日なり
(曇りたる模様となる)

夏秋蠶約三割の減收
其他には大なる被害を認めず

中通村 不詳

五月以來白紙が黒色程度に降灰す事數度に及び少しばかりの降灰は平均一ケ月七八に及びたるも日時不詳

― 辰己の風又は未申の風のとき多し
通例降雨前にて曇天なり

農作物被害は五六月の桑に葉面に降灰し蠶兒の全滅をなすことあり普通三四割減稻の開花時期に降り完全に結實することを得ず約三割減牛馬は受胎せるものを流産すことあり殖林に大害あり小供はとらほむにかゝるあり

長陽村

七月以來降灰し十一月八日以來降灰なし

美濃紙の上には最も甚しときは白紙たるを認めざる程度なり

砂の如く灰の如きものあり

― 東の風曇り勝の天気多し晴天の時も降灰あり
雨と共に降灰あり

水稲四分乃至一割位陸稻五割牛馬家畜等に被害あり稲は何れも開花時期にして曇天多く半開なれば風化作用悪し結實不良にして粗穀に這入り玄米は黒質脆く碎け多し牛馬家畜は露を置く草の蘆を食し胃腸を害し往々斃死するものあり被害又侮るべからず産するものあり被害又侮るべからず

南小國村

八月十日夜間
八月十二日午後二時頃より
午後一時頃まで

桑の葉が黒色に
見ゆる程度

煤の如し

南風のとき多し但し少
し東に偏す天氣は霾曇
りて翌日は雨になりそ
うな蒸し暑い日

農作物には影響なし養蠶家は桑葉を
洗濯して給せしも稍不良なりし如し

尾ヶ石村

不詳

白紙が薄墨程度
に降り蔬黄のは
ほひ甚しきとき

小粒の砂の如きと
き或は灰の如きも
のあり

南東風のとき多し

玉蜀黍最も甚しきは枯死の情態に陥
りたるものあり半作程度なり稻其
他作物にも小被害あり牛馬の飼育に
最も困難にして殊に牛は斃死するも
のあり蚕蠶期には一部全滅のときあ
り夏秋蠶は約五割の減収なり

馬見原町

不詳

阿蘇の噴煙の盛になる時は屢々降灰を見ることあるも其の量甚だ稀薄にして草葉萱葉等に霾の點在
を見るも雲行を見て辛じて降灰なりと推斷のする位にして農作物家畜殖林等には何等の被害はなし

農作物の被害約三割減牛馬の害流産
頗る多く約二割減養蠶の害五割乃至
六割減殖林は一割乃至二割減

永水村

十回

一回に降ること
一日にして止む
ことあり二三日
に亘ることあり
一週間も續くこ
とあり

降りたる量は一回
に十五分位を最高
とし其の形は砂の
如し

南東風の日多し

玉蜀黍五割大小豆の如きは殆ど全滅
して家畜の被害は下痢症に胃された
もの約一割蠶業は殆ど全滅なり

波野村

本年四月上旬より
九月下旬に涉り

美濃紙の上に
二五位置稱る

灰色の如き砂

北西の風なり雨天より
晴天に變る場合降灰し
たり

玉蜀黍一割五歩乃至二割減
粟二割
水稻二割
麥三割
大豆二割
大豆二割

高森村

霾の降りたる月日時時刻
及び止みたる時刻は別
表にあり

降霾の量は十月
十七日十月廿一
日まで最も多く
其の量は一反歩
二十貫十月十七日
二百貫十月二十
日五百貫十月廿
一日百十七貫

玉蜀黍五割大小豆の如きは殆ど全滅
して家畜の被害は下痢症に胃された
もの約一割蠶業は殆ど全滅なり

阿蘇郡高森村降灰日誌

七月以來 降りし月日時刻	當日の 天候	風向	量	摘	要
七月十九日午前	晴后小雨	北西	中位	噴煙北西風により色見村に降霾最も甚しく高森の柳草部にも除る	
二十日	晴	北西	多し	同	
二十一日	晴	北西	中	風少く降霾甚しく外出には傘を用ひる位なり高森、白水最甚し	
二十二日	晴	北西	中	噴煙甚しく高森、色見、白水に降霾甚しく午前七時鳴動あり	
二十三日	晴	北西	中	噴煙甚しく高森、色見、白水に降霾あり午后夕立あり風の方向北東に轉ず	
二十四日	晴	北西	中	白水、長陽方面に降霾あり	
二十五日	晴	北東	中	同午後三時より夕立雷の鳴動あり	
二十六日	晴	北西	中	高森、色見、方面に降霾あり	
二十七日	晴	北西	中	高森、色見、野尻、草部方面に降霾あり	
二十八日	晴	北西	中	同	
二十九日	晴	北西	多	同	
三十日	晴	北西	中	同	
三十一日	晴	北西	少	同	
八月 一日	晴	北西	中	色見、白水、草部に降霾あり	
二日	晴	西	中	高森、色見、野尻波野に降霾あり	
三日	晴	北西	多	高森、白水、長陽に降霾あり	
四日	晴	北西	多	南郷、全般に降霾あり	
五日	晴	北西	多	同	
六日	晴	北西	多	同	
七日	晴	東	多	長陽村に降灰あり	
八日	晴	東	中	同	
九日	晴	東	中	同	

九月	二日	晴	西	中	噴煙に少しよなを含む
三日	晴	西	中	鳴動甚大なり	
四日	晴	西	中	同	
五日	晴	西	中	同	
六日	晴	南東	中	阿蘇谷方面へ降霾す	
七日	曇	東	中	同	
八日	曇	東	中	同	
九日	雨	北東	中	煙見へず	
十日	曇	北東	中	同	
十一日	晴	東	少	長陽方面へ降霾す	
十二日	曇	東	中	鳴動なし阿蘇谷長陽へ降霾す	
十三日	曇	東	中	同	
十四日	晴	北東	多	同	
十五日	晴	南西	中	色見山麓の一部へ	
十六日	晴	南西	中	同	
十七日	晴	南西	中	同	
十八日	晴	南西	中	同	
十九日	晴	南西	中	同	
二十日	雨	南西	中	白雲の爲め山上不明	
二十一日	雨	南西	少	噴煙少なし	
二十二日	晴	南西	少	同	
二十三日より	晴	南西	少	噴煙甚しく白水、長陽、高森方面へ	
二十八日まで	晴	南西	少		
二十九日より	晴	南西	少		
三十日まで	雨	東	多		

〃	〃	十月	〃	〃十月
二十一日	二十日	十七日	五日	四日より
晴	晴	晴		晴

				南
--	--	--	--	---

				少
--	--	--	--	---

同	同	降 灰 烈し	降 霾 止む	同
---	---	--------------	--------------	---